

# かわら版



サケのまち宮古PRキャラクター  
サーモンくん&みやこちゃん

宮古市では、現在、宮古駅南側に、市民交流センター(仮称)、市庁舎、保健センターの3つの機能を集約した「地域防災拠点施設」を建設しています(平成30年7月完成予定)。

この新たな施設のあり方や、現市庁舎移転後の跡地の活用方法、そしてこれらを核とする中心市街地に賑わいを生み出すためのアイデアを話し合うため、平成26年11月から「まちづくり市民会議」という場をもうけ、活動をはじめました。平成27年12月からはseason2(第2期)の活動を実施しました。

今年6月からは、引き続き「まちづくり市民会議season3」(第3期)の活動を開始しました。9月までの間に、アイデアの実現に向けたワークショップ形式での話し合いを計4回実施し、10月15日(日)に、中央通商店街から新川町、市役所分庁舎エリアに3ヶ所の会場を設け、これまでのワークショップで育んだアイデアを実践する場「みやこ・わくわくストリート2017」を開催しました。当日はおだやかな好天に恵まれ、多くの市民の皆さんにご来場いただきました。

## 11月25日 season3 ふり返りワークショップを開催

平成29年11月25日(土)13:30より、市役所分庁舎で、season3(第3期)最終回となる市民ワークショップが開催されました。テーマは「みやこ・わくわくストリート2017」を振り返って」。当日は、38名の皆さんに参加していただきました。当日の様子は、まちづくり市民会議facebookページに掲載されています。

<https://www.facebook.com/miyakowakuwaku/>



## 各プロジェクトからの発表～市長、先生方からのコメント

今回のワークショップは、「みやこ・わくわくストリート2017」の振り返りです。各プロジェクトごとに、良かった点や課題についてまとめ、発表しました。当日は、山本市長、植田先生(岩手県立大)、北原先生(弘前大)にも来ていただき、コメントをいただきました。以下、その内容を紹介します。

### みやっ子商店

子どもから年配の方まで幅広い年代に来ていただき、駄菓子も完売。売場スペースの広さ、動線、スタッフの休憩時間などが課題。



### アクティ部ひろば

親子で楽しんでもらえ、無事にできた。スタッフの人手が足りなく、危機管理という面では不十分だった。スポーツ団体等のPRの場として活用の可能性も。



植田先生

市民が協働して取り組むということの実践が始まったという感じを受けました。普段の宮古にない賑わいを生んでいたと思います。



植田先生

今後は、新しい種目を開発できるといいですね。地域の高校生(クラブ)やスポーツ少年団などを巻き込んで(スタッフ参加)は。



山本市長

今の時代では体験できないものが、今後のまちづくりには大切。気持ちの豊かさという面で。



山本市長

市では、応急仮設住宅が建っていた公園を「健康公園」にしたいと考えていますが、それにも活用できる取り組みですね。



北原先生

年に1回の開催が、場所を変え、時期を変え、あるいは「年に何回か」という取り組みになる可能性もありそうですね。



北原先生

分庁舎は良い場所。外階段を残してステージとして活かす方法もあるのでは。5年後にも普通に見られる光景であってほしいです。

# 各プロジェクトからの発表～市長、先生方からのコメント

## ほりた・デ・アエル

イラストの展示だけでなく、クイズも実施したことで、幅広く楽しんでもらえた。今後も継続して活用していけるような方策を考えていきたい。



植田先生

高齢者向けの企画だと思います。例えば、高齢者に語り部として関わってもらい、昔の街を語るのも面白いのではないのでしょうか。



山本市長

レストランほりたは、正装して洋食を食べるイメージ。ハイレベルなお店でした。蔵に合ったアイデアを、皆で考えましょう。



北原先生

今後、堀田さんだけでなく、他の蔵も使いながら、何かできるという可能性を。取り組みを支援していくような制度も必要でしょう。

## まんなかマルシェ(共催)

異なる職業の人たちが同じ場所を共有することができた。集客も多く、売上げも過去最高だった。告知方法(特に年配の方に向けて)などが課題。



植田先生

たとえば、月に1回「第●○曜日」というように定期的にやっていけるようになれば、商店街の魅力になると思います。



山本市長

「この街には何も無い」ということではなく、自分たちで「あるもの」を活かして楽しむ。そうすると、また様々考える人も出てくるのでは。



北原先生

「あの店にいったらこんなものがあった」というようなものを、その可能性を見せてくれた取り組みでした。さらに頑張ってください。

## まちなか収穫祭-みやっこハロウィン

昨年の実績がなかったが盛り上がった、「奇跡」だった。一方、人手不足で準備が遅くなり、事前の周知が足りなくなってしまった。来年に向けてスタートしよう！



植田先生

「秘伝の書」は、ホームページでアップすれば、絶えず改訂版が出せるでしょう。今後も発信して行ってほしいです。



山本市長

宮古の歴史を学ぶ楽しみが増えること、未来の子ども達に接していく工夫として伝えていくことを期待します。



北原先生

10月15日で終わりではなく、日頃から積み上げていける取り組み。「宮古は面白い」という関心が広がるきっかけになったと思います。

最後に、season3の活動全体についてのコメントをいただき、今回のワークショップは終了しました。



植田先生

「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に対応した動きだと思います。短期的な売上げだけでなく、活動を通じて商店街活性化にどう反映したのかの成果を検証してほしいです。



山本市長

市民が楽しく豊かに過ごせるユートピアを目指して、皆さんと一緒にまちのあり方を考えていく必要があります。この活動を通じて新しいものが生まれてくることを期待して、これからも皆さんの活動を応援していきます。



北原先生

この活動は、空間はまだつくっていないが、出来事をどんどん積み重ねてきています。それが続いている点で「まち育て」だと思います。どのチームも「来年どうしたらいいか」と考えていました。これからもいろいろなチャレンジをしてほしいと思います。

## 今後の予定

まちづくり市民会議season3の活動は、今回のワークショップでひと区切りとなります。

現在、県立大学盛岡短大部2年生の学生さんが、わくわくストリート来場者へのアンケート調査の結果と、スタッフへのアンケート調査の結果をまとめているところです。結果がまとまりましたら、改めて、この「かわら版」などで、皆様にお知らせしたいと考えています。

今後、来場者や各プロジェクトのメンバーからの意見を活かしながら、season4の活動の準備をします。season4の予定が決まりましたら、facebookページ等でお知らせします。ぜひ、今後の活動にもご参加くださいますよう、お願いいたします。

<https://www.facebook.com/miyakowakuwaku/>

問合せ先: 宮古市復興推進課  
tel.0193-68-9089